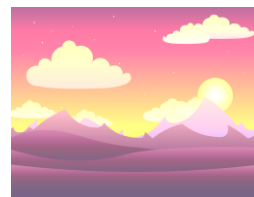


第3学年 国語科学習指導案

1. 日時・場所 令和元年12月6日（金） 4校時

2. 単元名 そうぞうをはたらかせて読もう
～「わにのおじいさんのたから物」～
川崎 洋作（全11時間 本時6時間目）



3. 単元目標

- 場面の様子から登場人物の性格や気持ちについて想像し、行動や会話、地の文などの叙述をもとに読み深めていくことができる。
- 物語を読んで考えを伝え合うことで、互いの考えの違いやそのよさを捉えながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

4. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」
・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

（1）児童の実態

<3年3組の子どもたち>

和やかな雰囲気の中で、仲よく気持ちよく過ごそうと、おおらかに接することができる子が多い。感情のコントロールが難しい子もその和やかな雰囲気に包まれ、穏やかに生活できている。学習場面でも、お互いに譲り合ったり、尊重したりすることができる。その一方で、「それは違う。」「よりよいのは・・・?」と追究していくべきところでは、考えの相違点を捉えて聞きとり、自らの意見を述べることを春から指導してきた。この関わり方は、学習場面だけでなく日常の係や当番活動で、自由な発想や創意工夫を凝らして活動したりする場を設けてきた。この積み重ねにより、みんなでよりよいものを生み出していこうとする意識も高まっている。さらに自分たちが練り上げた「自分たちらしい」活動が展開されるほど達成感を強く感じ、友達と話してよかったと思う経験を数多く積んできている。

国語科の物語については、役割読みや動作化をして読むのが好きな子が多く、3年生に入って「つりばしわたれ」や「あらしの夜に」の登場人物である「トッコ」や「ガブとメイ」の様子や気持ちを想像しながら読んできた。しかし、語彙の量が不十分で、なかなか言葉から場面や人物の気持ちを想像しにくいため、物語の内容の把握に時間がかかる。音読もたどたどしい子があり、音読の宿題を億劫に思う子も少なくない。したがって、**初発の感想からの問題作りは難しく**、しばらく読み慣れてから「みんなで話してみたいこと。」や「不思議に思うこと。」などがいくつかわき上がってくるのが現状である。個人のレベルでは、物語を楽しみつつも「なんにもみんなで話したいことがない!」と興味なさげに声を上げる子もあり、自分の問題をつくるのが難しい状況も散在している。

<聴く・話すについての指導>

どんな話し方・聴き方がよいか、クラスで話し合っ確認したものを掲示し、それに向かって頑張ってきている。特に聴き方については、「一人ひとりの意見を大事にするクラスにしようね。」と声をかけ

ながら、普段から意識してきている。しかし、聴いてはいても手いたずらがやめられない子、言語の飛び交う場面での集中が難しい子もいる。子どもたちが必要だと思うもの、みんなで解決しなければならないもの、みんなで決めたいものなど、話題については精査し、「聴きたい」「話したい」と思うものを設定してきた。

また、分からない言葉や理解できなかった意見については、そのままにせず、「～ってどういう意味？」「どういうこと？」という言葉は遠慮なく言ってよいことを徹底してきた。それが友だちの考えをちゃんと分かりたいと思うことの表れであり、自分の考えをしっかりと整理するために大切なことであるということを確認してきた。それに対し、答えるときにも質問されている子だけでなく、周りの子が言葉をつないで理解し合う場面も意図的に作ってきた。**話すことについては、女子を中心に恥ずかしがる傾向がある。恥ずかしいなりに、みんなで話していることには真剣に考え、聴いて考えを深めることを大事にするよう声をかけている。**

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

学年では、ひびき合うための話し方として、次のように取り組んでいる。(クラスの子どもに合わせて多少の違いはある)

〔ひびき合うための話し方〕

- ①意見・アイデアを出す(種をまく)→否定しないで聞く。
- ②意見を広げる(芽を出す)→出された意見について考え、自分の意見をもつ。
- ③意見を深める(芽を伸ばし、花をさかせる)→互いの意見を吟味し、検討し、
自分の考えを変容させたり、深化させたり、統合させる。

様々な場面でこうした話し合いの形をとり、ひびき合う経験を積んできた。

さらに、理科や社会では、目の前の事象から疑問や問題を発見し、生活経験や既習の学習経験などを足場に自由に話し合うことができるようになってきた。特に理科の「ゴムのはたらき」では、ゴムカーで遊ぶ共通の経験から、「ゴムカーを遠くまで走らせるにはどうしたらよいか？」という大きな問いが生まれ、そこから「ゴムを太くすると遠くまで走るか？」(他に本数・長さなど)と問いをさらに深め、追究をしてきた。子どもたちは、それぞれに自分の予想と友達の予想のずれに注目しながら、話し合っていた。「よく伸びる方がいいから、細い方がいいよ。よく伸びたら、縮むよ。」「ちがうよ。固くてもどろろとするからとぶよ。だって本数の時もそうだったでしょ？だから、太い方がいい。」「太いゴム触った時には、固くてもどろろとする力があつたよ。」など、互いの根拠を聞き合い、ゴムの性質に対する見方や考え方を培っていった。

その一方で、国語ではそういうことが未だできにくい状況が続いている。文章の言葉に注目することができにくい子どもたちが、おもしろいお話の中から「おやっ？」と思うことを見いだし、その問題について少しでも叙述を足場に考え、読みを深めていけるようになることがまだ難しい。**読み物についても友だちとの読みの違いに注目し、話し合いながら広がっていく物語の世界を楽しめるようにひびき合うことが、今の子どもたちの課題である。**

(2) 単元と指導

<単元について>

本単元は「C読むこと」の指導事項「イ. 登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基にとらえること。」「エ. 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること。」「オ. 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。」「カ. 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気づくこと。」および言語活動例「イ. 詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。」

にあたる。

教材文である「わにのおじいさんのたから物」は、無垢で純粋な「おにの子」が主人公の物語で、冬の川岸で「わにのおじいさん」と出会う所から始まる。全て「おにの子」の視点で書かれ、子どもたち自身が自分と「おにの子」を重ね、心を寄せながら、読むことのできる作品である。

これまでたくさんの昔話を読んできた子どもたちの中では、「おに」は退治されるなど、疎まれることが多かった。しかし、この物語に出てくる「おにの子」はぼうしをかぶり、生まれて初めて水際でねむっている「わに」と出会う、幼くかわいらしい子である。既成の「おに」の概念を物語の初めから覆される。その「おにの子」が、「わにのおじいさん」が死んでいると勘違いをし、けなげに朴の木の葉を「拾っては運び」、「朝だったのが昼・・・やがて夕方」になるまで体にかけてあげる。見ず知らずの「わに」に、丸1日かけて丁寧に葬ろうとする根気強い優しさに、けなげを感じ、その人間性に心寄せていくにちがいない。いつもの「おに」とは違うその中身を見つめさせられ、自然と「おにの子」の人物像にせまることができる教材文であるといえる。

さらに、「わにのおじいさん」は、宝物を「取ろうとするやつ」から逃げて長い旅をして来た者として描かれている。悪から逃げる善として存在し、「にこっと」して宝物をゆずることに決めるおじいさんなのである。ここでもどう猛なイメージの強い「わに」の概念が崩される。「なぜたから物をゆずるのか？」はそうしたギャップからも自然と問いとして生まれやすい。**問いを持ちにくい子どもたちには、自分たちで問いを作るのに適した題材であろう。**

物語は最後の場面でも子どもたちに大きな投げかけをすることになる。「わにのおじいさん」から譲り受けるはずの「たから物」には行き着かず、「がけの上の岩場」に立って「目を丸くするほど」感動したのは美しい夕焼けだったというドラマティックな展開である。本当のたから物に行き着けない残念さの裏側に、「これがたから物なのだ。」と強い断定で言い切る「おにの子」のすがすがしさがある。そこにギャップと面白さを感じるだろう。しかし**同時に「本当のたから物とは何か？」を物語のクライマックスで読者に投げかける仕掛けがここにある。人間のものの見方や考え方に強く訴える作品であり、登場人物を通してそうした文芸体験のできる作品である。**

<指導について>

○子どもの問いが生まれるために○

先に述べた作品の構図から、「おにの子」の人物像に興味を持って迫っていきえるようにするために、単元導入前の読書タイムに「おに」の話を読む。「おにの話コーナー」を子どもと一緒に作り、みんなで読むことで、「おに」についてある程度の知識を共通して獲得しておく。図書館司書との協力で、他の図書館とも連携し、図書を充実させる。また、読書量に差があることを考慮し、数冊読み聞かせをしていく。それによって、単元の導入時も「今度のおにの話はどんなお話だろう？」という知的好奇心に近い問いをもって作品と出会えるだろう。また、この物語に出てくる純粋無垢な「おにの子」に、「（おに）なのに） どうして見ず知らずの初対面の者にそこまで優しくするのか」といった問いも、共通の読書体験を土台に生まれやすい。

さらに「わにのおじいさんのたから物」といった題名にも立ち止まり、考えていきたい。「たから物」という言葉の響きからも、子どもたちをワクワクさせるが、「わにのおじいさんのたから物」がどんな物を想像して楽しむことが、後の問いを生む大事な土台となる。つまり、**「おじいさんのたから物」が、宝箱に入った財宝などをイメージすればするほど、「これがたから物なのだ。」と美しい夕焼けをたから物とするおにの子の価値観をどう捉えるのかが問いになる**からである。

○単元のねらいに近づく「ひびき合い」になるために○

最後の場面のたから物を見つけられなかったことは、子どもにとって衝撃であろう。題名について想像を膨らませ、わにのおじいさんのたから物を何だか知リたかった子どもたちには、「たから物を知っている人にあげればよかったのに。」などの後悔に似た気持ちになるだろう。初対面の幼い子にあげた理由

を知りたくなるのは自然だろう。「わにのおじいさん」は「たから物というものをしらないのかい？」という言葉以降、何も語ることなく「君に、わしのたから物をあげよう。うん、そうしよう。」と決心に至り、明確には書かれていない。一番子どもにとって切実に解決したい問題は「なんでおじいさんはおにの子にたから物をあげようと思ったのか？」である。

子どもは、おじいさんに親切にした「おにの子」に同化して読んでいるため、最初は「優しくしてもらったお礼」や「お返し」「優しくした子へのごほうび」といった意見が大半を占めるのではないかと思う。しかし、いろいろな場面の叙述と関連づけながら、友だちと意見を交流することで、徐々に「守ってきたたから物の意味を考え、「わにのおじいさん」の気持ちに気づいていく姿をひびき合いの姿とした。今回の学習場面は、どの意見も当てはまるため葛藤する形で話し合いは展開しない。しかし、少しずつ意見を重ね合わせながら、想像を豊かに膨らませ、「しばらく」「まじまじと」「やがて」と「わにのおじいさん」が時間をかけて考え、決定に至ったその思いにせまっていってほしい。じっくりと考えたおじいさんと同じく、短絡的でない、様々な要素を含んでの決心だったことに気づいてほしい。そのためにも、「君はたから物というものを知らないのかい？」から気持ちが変化していることを子どもと共に確認をしていく。また、おじいさんの「たから物」に対してどう行動してきたかに注目した発言や、「これでわしも心おきなくあの世へ行ける」などの言葉に注目した発言を中心に板書を構造化していく。発言の列挙ではなく、広がり深まっていくためにも、「どの気持ちが強いのかな？」など、さらに考えを広げていくことができるように補助発問等も用意していく。

5. 単元構想 3年 国語「わにのおじいさんのたから物」(全12時間)

単元 目標

- 場面の様子から登場人物の性格や気持ちについて想像し、行動や会話、地の文などの叙述をもとに読み深めていくことができる。
- 物語を読んで考えを伝え合うことで、互いの考えの違いやそのよさを捉えながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。



前単元「読書週間に本のポップをつくろう」

みんなの本を集めて読もう！

- ・「わたしの同じお話なのに、題名違うんだよ。」
- ・「『千里のくつ』と『鬼と子ども』って同じなんだ。」
- ・先生読んで！⇒読む。
- ・おもしろい！！ もっと読んで！「桃太郎」「鬼はうち福はそと」
- ・鬼の話もっと読もう。いろんな鬼がいるね。ぜんぜん違う。

おにの話を集めて読もう！<読書タイム>

- ・おにの本コーナーにリニューアルしよう。

・教科書にも鬼がでてくる話合ったよ。

・先に読んだの？・ずるーい。

・教科書も読みたい！

じゃあ読んでみようか？

・読みたい！・今度は「おに」といっても「おにの子」だ。どんなおに？だろう。」

・「わにのおじいさんの宝物」ってどんな宝物かな？・宝物をうばうのかな？

学級文庫の充実と、子どもたちと一緒に、おにの話を集めて楽しむ。いろんなおにがいることに気づきながら、出会う「おにの子」の性格に興味をもてるようにする。

「わにのおじいさんの宝物」はどんなお話かな？①②

題名からどんなお話か想像してみよう

・おにの宝物なんだろう？・宝石？

・とったおばあさんの骨とか。

・お金じゃない。・お茶

・金銀財宝だと思う。・家族

・題名が「わにのおじいさん」なのに「おにの子」が主人公なの？

・でも桃太郎もそうじゃん。そうか。

どんなお話だったかみんなで確認しよう。どう思ったか交流しよう。

・えーっ！・おもしろい！・たくさん面白いところがあったよ。

・宝物見つけれられてないじゃん！(笑)

・宝物じゃない物が宝物だと思っちゃってておもしろい。

・宝物をしらないままでかわいそう。・かわいそうじゃないよ。

・おにの子がずっと夕焼けに感動しているところがおもしろい。

・おにの子が、わにのおじいさんにやさしいところがいいな。

・おにの子は怖いのかと思ったら、普通の人間みたいでびっくりした。

・桃太郎の続き話みたいでおもしろい。

今度はどんな鬼かな？

・やさしい鬼かも。ちょっと絵がみえた！

・でも、怒ったらこわいとか。

・くいしんぼうの鬼じゃない？

・弱い鬼・おもしろい鬼・子どもの鬼

登場人物と場面の確認。お話の流れを簡単に確認する。あまり内容の確認に時間をかけると、面白いなと思った部分が薄れてしまう。感想交流の中で、感想が集中している場面や、感想にずれのある場面を整理し、解決していきたい問いを作っていく。

○どんな鬼か？性格を詳しく知りたい。

・なんでたから物を教えたかったのかな？

○なんでおの木の葉を掛けてあげたんだろう。・どうやって背中に地図を書いたのかな？

○なんでおじいさんはおにの子に宝物をあげようと思ったのかな？

・本当の宝物は何だったんだろう？・なんでぼろしをとって喜んだのかな？

・おにの子はどうしてなににも知らないんだろう？→ 本文には出てこないから解決できないね。

○宝物を知らないおにの子はかわいそうか？ みんなで読みながら問いを解決していこう

なんで葉っぱをかぶせてあげたのだろう⑤⑥

<個人解決タイム>

<集団解決タイム>

・冬になって寒くなったから、温めてあげたんじゃない？

・寒いかわいそうだと思ったと思う。

・わにをこわいと思っていなかったから、かわいそうと思って親切にしたかったんだと思う。

・死んでるかもしれないと思ったけど、温めれば生き返ると思ってかけたんだよ。

・「死んだんだと、おにの子は思いました。」と書いてあるから、死んだままだとかい

うだから葉っぱを掛けてあげたんだと思う。

・「半分ほどうまりました。」って書いてあるから、死んだわにをうめたかったんだよ。

・「目をあげたです。」とあるから、おにの子は驚いたから、生き返らせようとは思ってな

いんじゃない？

<学習感想を書く>

・生きてると分かっておにの子は驚いたけど、嬉しかったと思う。

・最初は生き返らせたいと思ってと思ったけど、「うまりました」とあった

から、やっぱり、埋めてあげたかったんじゃないかと思いました。

・かわいそうというより、死んだのを見て悲しくなって葉っぱを一生懸命

かけたと思う。

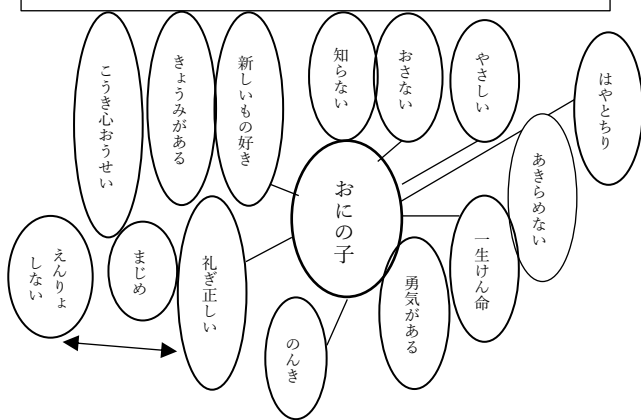
・わにのおじいさんは、目を覚ましたときに嬉しかったと思う。おにの子はやさしいな。

・やさしくしたからたから物をくれんじやないかな？

全員で音読し、ほおの木の葉をかけた理由やヒントになりそうな部分に線を引き、自分の考えを作っていく。

おじいさんに葉っぱを掛けてあげる理由を考える事を通して、葉っぱを掛けてうめようとしているおにの子の悲しい気持ちに気づくことができる。(読む)

おにの子はどんなせいにか？③④



<個人解決タイム>・たくさんないけどかいた。・豆太の時とてなるな。

・どんな言葉があったっけ？・やさしいばかりになっちゃった。・いろいろかいたよ。

<集団解決タイム>

・「死んだんだー。」と言ってるから、はやとちりだと思う。・ワニにもたから物も知らないけど

きょうみしんだから、新しいものが好きだと思う。まじめと見てたし。

・葉っぱを掛けてあげるからやさしい。・わににあんなに近づくから勇気がある。

・「峠をこえ、岩穴をくぐり、橋を渡り…」だからあきらめない子だな。

・敬語使ってるから礼儀正しいよ。

なんでおじいさんはおにの子に宝物をあげようと思ったのかな？

⑦⑧ (本時)

おれい・おかえしの気持ち

- ・ほおの木の葉を掛けてくれたから
- ・優しくしてもらったからそのおれい
- ・大変なのに頑張って一日かけて葉っぱをかけたから

- ・君かい、はっぱを、こんなにたくさんかけてくれたのは。
- ・朝だったのが昼になり、やがて夕方近くなって…
- ・ああ、いい気持ちだ。

たから物を知らないから

- ・たから物ってどんな物かおしえてあげたから
- ・たから物を見せてあげたいから
- ・初めて見るおじいさんのたから物に感動するから

- ・「君はたから物というものを知らないのかい？」
- ・すっとんきょうな声
- ・そしてまじまじと
- ・やがて、しわしわくちゃの顔でにこっと
- ・君の目でたしかめるとい。

おにの子がいい子だから

- ・人を大切にすると、きっと人からもらった物も大事にしてくれるようだから。
- ・知らない人にみつけれられるより、自分が信用できる人にあげる方がいいから
- ・大切にしてくれると思って、安心してたから物をあげられるから

- ・葉っぱを拾っては、わにのとこに運び、
- ・朝だったのが昼になり、やがて夕方近くなって…
- ・死んでおいでかと
- ・ここまでおいでになった

おじいさんは本当はあげたくない。うそをついている。

- ・今まで悪いやつに追いかけてきた。
- ・命もねらわれてきて、あげたくないと思っているはず。

- ・わしをころして、たから物をとろうとするやつがいて
- ・長い、長い旅を続けてきた

- ・板書で読みの広がりが見れるように、構造化していく。
- ・叙述のどの部分を根拠にしたのか分かるように、ノートの書き方や書き込みの仕方を指導する。
- ・決めた瞬間のおじいさんの行動を動作化してみる。

たから物を守ってくれるから

- ・もう死んじゃうから、引きついでくれるように
- ・130歳だから、死ぬ前に大事な宝物のあとつぎとしてわたした

心おきなくあの世へ行ける

- ・わしをころして、たから物をとろうとするやつがいて

君に、わしのたから物をあげよう。

「どの気持ちが一番つよいかな？」

- ・おれいだったら、もっと早くにあげるといふんじゃない？
- ・知らない人と分かってから考えるから、知らない事に驚いて、たから物のすぐきを知らせたいと思ったと思う。
- ・まじまじと見ている時にいろんな理由を考えていたかも。
- ・「君の目でたしかめるとい。」といっているよ。

わにのおじいさんの気持ちの変化に気づき、たから物をあげようとした理由を読みとることができる。<読>ノートわにのおじいさんの行動や気持ちの表す表現を見つけている。<意>友だちと話し合い、自分の読みを広げたり、読みの多様性に気づいたりすることができる<読む>ノート

<学習感想>・最初は一つしか理由がなかったけど、みんなの考えを聞いて、たくさん理由が見つかった。おれいだと思っていたけど、おじいさんがまじまじと見るところで、「宝物のを見せたいな」と思ったと思うから、意見が変わった。・「心おきなくあの世にいける」の意味がわかった

たから物を見つけられなかったおにの子はかわいそうか？⑨⑩

かわいそうじゃない

- ・夕焼けを見て、すごく嬉しそうだから
- ・世界中で一番すてきな夕焼けは一つしかないから。
- ・夕焼けがたから物っていいと思う。
- ・おにの子にとってのたから物がみつかったからいいと思う。
- ・物じゃないたからものも大事だから。
- ・おじいさんも自分のたからをうめた場所が素敵と思われたら嬉しい。

- ・目を丸くしました。
- ・口では言えないほど美しい
- ・いっぱい広がっている
- ・思わずぼうしを取りました。
- ・これがたからものなのだーうなずく
- ・世界中で一番すてきな夕焼けがみられる場所なんだ。
- ・いつまでも夕焼けをみていました。

かわいそうだ

- ・本当のたから物を知れなくてかわいそう。
- ・わにのおじいさんの思ってたことが伝わらなかったから
- ・わにのおじいさんも残念がるから。
- ・たから物が何なのか分からないままだから。

- ・君はたから物というものをしらないのかい？
- ・たから物がどういうものか、君の目でたしかめるといい。
- ・これでわしも、心おきなくあの世へいける。

<学習感想> ・本物のたから物をしらないのはやっぱりかわいそうだと思う。・本物を知って、それでも夕焼けの方がたから物って思えた方がいい。・夕焼けがきれいだと思うくらい心がきれいだから、かわいそうでないと思う。
・もっとおもしろい本をさがしたい。 ・もっとこのお話の続きをしりたい。
・続き話がつくりたい。 ・いいね！鬼の子のその後も、わにのおじいさんのその後も書きたい！ ・桃太郎の子孫が出てくるとか？ ・新しい登場人物も出したい！

友だちと話し合い、自分の読みを広げたり、読みの多様性に気づいたりすることができる<読む>ノート

互いの意見の違いがわかるよう板書を構造化する。
・おにの子の気持ちを叙述を丁寧に拾うと同時におじいさんの思いに触れた意見にも視点があたるようにする。

自分で続き話つくって
友だちと読み会おう⑪⑫

<続き話を作ろう>

- ・よし！おもしろいにするぞ。
- ・感動のストーリーにしてい！おれ、書きながら泣いちゃうかも
- ・鬼の子の性格とか、わにのおじいさんの性格は変わったらだめだよな？
- ・そうだよ。変えたらちがうお話になっちゃう。
- ・何枚書いてもいい？

- ・これまで学習してきた足跡を大事にしながら、鬼の子の性格を生かし、楽しいお話を書けるようにしていく。そのために、揭示物を残し、いつでも見られ量にしておく。
- ・筆が進まない子には、いろいろな教科書の叙述をヒントにしながら、教師からアイディアを与えたり、出来事だけではなく、会話や情景を描くことなどを指導したりし、意欲を引き出すように励まして行く。

物語の設定を引き継ぎながら、物語の続き話を書くことを楽しんでいる。<意欲>

6. 本時案

本時目標「友だちと考えを交流しながら、叙述をもとにわにのおじいさんの気持ちを想像し、おにの子にたから物をあげた理由を考えることができる」

子どもの思考と学習活動	主な支援・留意点・【評価】
・ 知らないから ・ 見せたい ・ 教えたい ・ 知らないのはかわいそう 君の目でたしかめるといい。 はじめてならよろこぶ すごい物と思ってくれる 感動してくれる いい人だから ・ やつと いい人 に出会えた ・ はじめて自分の方に ・ 来てくれた ・ やさしい ・ 礼儀正しい 「信用できる」 ・ おれい・おんがえし ・ 葉っぱをかけてもらった ・ 夕方までやってもらった ・ きもちよくしてくれたから ・ 本当はあげたくない ・ うそをついている。 大切にしてくれるから 守ってくれるから 「これでわしも心おきなくあの世にいける」 わにのおじいさん ・ 百三十才 ・ 全身しわくちや 「今まで 悪い人 にねらわれてきた。ころされそうになった 「たから物」 「君はたから物というものを知らないのかい？」 すっとんきょうな声で しばらく まじまじと顔を見ていた やがて しわくちやの顔でにこっと 「君に、わしのたから物をあげよう。うん、そうしよう。」 	・ わかりやすく、子どもの発言の中のキーワードを拾い、板書に位置づけていく。 ・ わにのおじいさんの気持ちに変化していくきっかけになった「君はたから物というものを知らないのかい？」からのおじいさんの動きに注目できるようにする。 ・ 前時までの読み取りや、叙述を基にした発言を認め、文章の本文が見やすいように掲示し、どの部分かが分かるようにする。 ・ 問いの答えが友達の考えを取り入れ、読みを広げていく子どもの言動を見とり、「答えは1つではないの？」と問い返し、長い間考えていたわにのおじいさんの気持ちがいろいろなことを考えて変化していったことであることに気づけるようにする。 ・ わにのおじいさんの気持ちについて考えることもできるように、たから物を守ってきた様子にふれた発言を中心に板書を構造化していく。 ・ 短絡的に「どれも合っていると思う。」といった考え方や、「お礼・おかえし」の考え方から、考えを深められるように、「どの気持ちが一番強いのかな？」と補助発問をし、おじいさんの気持ちの分かる叙述に注目できるようにしていく。 ・ 最初の自分の考えから、広がったり深まったりしたことを記せるように、振り返りを書く時間をとる。 ★登場人物の気持ちを、前時までの読み取りや、叙述をもとに考えて読んでいる。＜読む＞ノート・発言 ★友だちの考えと比較して聞き、自分の考えに生かそうとしている＜意欲＞ノート・発言

6. 本時案

本時目標「友だちと考えを交流しながら、叙述をもとにわにのおじいさんの気持ちを想像し、おにの子にたから物をあげた理由を考えることができる」